

事例1 小学校 知的障がい特別支援学校の各教科に替えた教育課程

学級及び児童の様子

知的障がい特別支援学級には、3名の児童が在籍している。その中で、2年生A児が音楽の授業で交流及び共同学習を行っている。

A児は、人懐こく、誰からも好かれる性格である。集団活動では、簡単なルールを守りながら仲良く最後まで活動できる。学習では、何でも前向きに取り組み最後までやり遂げる。体全体を使った運動が苦手で、手先も不器用である。

音楽は好きで、リズム感が良い。言葉は不明瞭なため、一部のフレーズのみを歌うことがある。ハミングで音程を取ろうとするが、外れることが多い。

連携シートの記入

事前に特別支援学級担任が、「児童の実態表」を記入した後、教科担当者が、題材名、題材の目標、A児の実態を踏まえた個別の目標や支援の手立てを記入しました。

実態表は、個別の指導計画に書いている実態を転記しました。題材名や題材の目標、個別の目標や支援の手立ては、まずは一題材のみ記入しました。

特別支援学級担任が、「児童の実態表」を記入しました。その際、個別の指導計画に書いている実態を転記しました。

教科担当者が、題材名、題材の目標を記入しました。

教科担当者が、A児の実態を踏まえ、個別の目標と支援の手立てを記入しました。

個別の目標を立てる際には、「**目標例と支援の手立て例**」を参考にしました。

教育課程B表 (2)年 氏名(A)	
児童の実態表 (個別の指導計画の実態を転記)	
学校生活全般の児童の特徴	
A児は、人懐こく、誰からも好かれる性格である。集団活動では、簡単なルールを守りながら仲良く最後まで活動できる。学習では、何でも前向きに取り組み最後までやり遂げる。体全体を使った運動が苦手で、手先も不器用である。	
教科に関する児童の特徴	
<ul style="list-style-type: none"> ・国語は、読むことは発音が不明瞭だが、単語のまとまりで読むことができる。書くことは、筆圧が弱く「はね、とめ」ができない。曲線が少ない平仮名は、書くことができる。 ・算数は、数詞、数唱、具体物の関係は、20までの数は正しく理解している。足し算、引き算の意味は理解しているが、繰り上がりがある計算は、指を使ったり数図ブロックを使ったりして操作しながら計算をしている。 ・体育は、手足の協調運動やボール等を使った運動は、苦手である。バランスを取ることが特に苦手である。 ・音楽は、好きでリズム感が良い。言葉は不明瞭なため、一部のフレーズのみを歌うことがある。ハミングで音程を取ろうとするが、外れることが多い。 	

音楽科 1学期	
題材名	はくのまとまりをかんじとろう
題材の目標	音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり聴いたりして、拍のまとまりや拍子の違いを感じ取る。
個別の目標	支援の手立て
支援員が階名を言うのを聞きながら、鍵盤ハーモニカを最後まで演奏する。	支援員がそばで曲の階名を読み上げる。
支援員の言葉掛けで、友達とペアになって最後まで手遊びをする。	曲の途中でペア交代ができていない場合は、支援員がまだペアになっていない友達の名前を本児に伝える。
支援員と一緒に2拍子3拍子の曲に合わせて最後まで手拍子をする。	リズムが合わないときは、1拍目を支援員が合図する。

<ポイント>



個別の目標を立てる際は、条件と達成基準を盛り込むと具体的な表現になります。

【個別の目標】支援員が階名を言うのを聞きながら、鍵盤ハーモニカを最後まで演奏する。

ここでは、「支援員が階名を言うのを聞きながら」が条件で、「最後まで演奏する」が達成基準です。

目標例と支援の手立て例【連携シート(小学校B表)のフォルダ】は、各教科の内容に一部対応させて例示しています。

記入内容の確認

年度当初に、5月の職員会議の終了後に打合せをする時間を決めていました。記入した連携シートを基に、個別の目標や支援の手立てを確認しました。

初めての打合せなので、特別支援学級担任、交流学級の担任、教科担当者、学年主任が集まって、共通理解を図りました。事前に連携シートを配付していたので、30分程度で打合せは終わりました。

その後、特別支援学級担任が支援員に連携シートを使いながら、A児の音楽の授業に関する個別の目標や、支援の手立てを説明しました。

児童の様子の情報交換

支援員が曲の全ての階名を読み上げていましたが、児童が覚えてきたので、曲の出だしだけ支援をするようにしました。その変更を、連携シートに教科担当者が記入し特別支援学級担任や支援員と確認しました。

また、朝から落ち着きがなくいららしていることなど、その日に伝えたいことは、交流学級での授業前に口頭で引継ぎをしました。

教科担当者が、支援の手立てを変更しました。

個別の目標	支援の手立て
支援員が階名を言うのを聞きながら、鍵盤ハーモニカを最後まで演奏する。	支援員がそばで曲の階名を読み上げる。支援員が曲の出だしの階名のみを、読み上げる。

評価

まず、一題材が終了後、教科担当者が連携シートの評価欄に文章で評価しました。評価は、「階名を覚えた」ことを付記して、個別の目標に沿って評価しました。

次の題材について、題材名や題材の目標、個別の目標や支援の手立てを教科担当者が記入しました。その連携シートを特別支援学級担任が確認し、付け加えてほしい支援の手立てがあったので、その旨を連携シートに記入しました。

教科担当者が、個別の目標に沿って、文章で評価しました。

個別の目標	評価
支援員が階名を言うのを聞きながら、鍵盤ハーモニカを最後まで演奏する。	「かっこう」の曲の鍵盤演奏では、ゆっくりした速さで最後まで演奏することができた。また、階名を最後まで覚えて一人で演奏をすることができた。

題材名	音のたかさのちがいをかんじとろう
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音の高さの違いに気付き、声の出し方や発音を工夫して即興的な音遊びをしたり、楽器で旋律遊びをしたりする。 音の高さに気を付けながら、階名で模唱や暗唱をしたり、鍵盤楽器で演奏したりする。
個別の目標	支援の手立て
鍵盤の印を見ながら、「かえるのがっしょう」の4小節を正しい運指で演奏する。	・ポジション移動をする音（ド・ミ）の鍵盤にシールを貼る。

特別支援学級担任が、支援の手立てを付け加えました。

個別の目標	支援の手立て
鍵盤の印を見ながら、「かえるのがっしょう」の4小節を正しい運指で演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジション移動をする音（ド・ミ）の鍵盤にシールを貼る。 ・指の移動が難しいところは、教師や支援員が移動させる指に触れる。